

学校だより学校アンケート号

令和7年11月11日
京都市立九条弘道小学校
校長 日吉 肇

お忙しい中、第1回学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。同時に、子どもと教職員についても日常の学習や学校生活を振り返って自己評価を実施いたしました。このアンケートは、現在進めている本校の教育を振り返り、成果と課題を明らかに、学校・家庭・地域が今まで以上に連携しながら、子どもたちをよりよく育む今後の学校づくりに生かしていきたいと思っております。

アンケートは児童・保護者・教職員に実施しています。児童には「～できていますかと」いう質問内容です。それに関連する質問を保護者・教職員にも実施し、保護者用には文末を「～と言っている」か「～できるように働きかけている・取り組んでいる」に変換し、教職員には「～できるように工夫している・働きかけている」という文末にしています。読み替えて、グラフを見ていただければと思います。

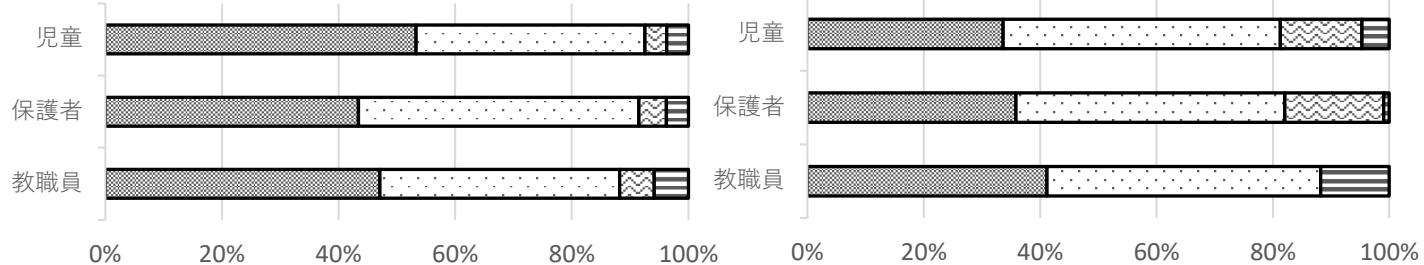
■出来ている □大体出来ている □あまり出来ていない □出来ていない

資料①【確かな学力】～自ら進んで学ぶ子～

・全体グラフの比較

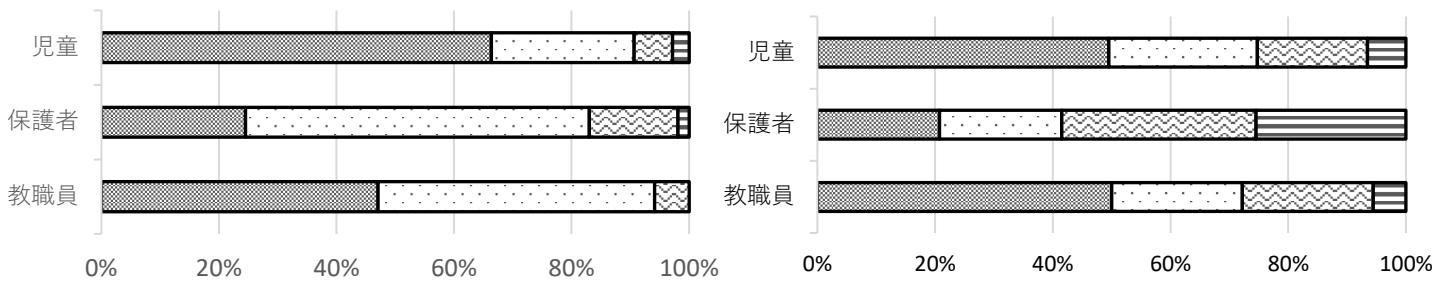
1 授業はわかりやすい。

2 相手に分かりやすいように自分の意見を話している。



3 友だちの意見を聞いて「なるほど」と思うことがある。

4 進んで本を読んでいる。



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」・「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

	質問	1・2年	3・4年	5・6年	保護者
1	授業はめあてとまとめがはっきりしていて分かりやすい。	96.1%	90.3%	92.0%	91.5%
2	相手に分かりやすいように自分の意見を話している。	88.5%	93.6%	70.0%	81.3%
3	友だちの意見を聞いて「なるほど」と思うことがある。	96.0%	90.3%	88.0%	82.8%
4	進んで本を読んでいる。	96.2%	87.1%	56.0%	42.0%

主な成果と課題

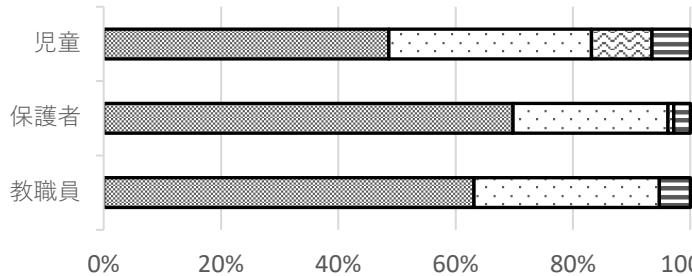
【確かな学力】～自ら進んで学ぶ子～

「確かな学力」を育むための取組について振り返った設問では、全体的に実現度の高い結果となりました。児童・保護者・教職員ともに90%以上が授業について「出来ている」「大体出来ている」と感じており日々の丁寧な取組の様子が伺われます。本校が大事にしている「対話で学びを深める子の育成」に関わる項目である「2. 相手に分かりやすいように自分の意見を話している」「3. 友だちの意見を聞いて『なるほど』と思うことがある」の2つについては、他の学年に比べて高学年での実現度が低くなっているのが気になるところです。普段の授業の様子や振返りの内容などを見ると、それぞれ力は付いてきている様子がみられますので、子どもたちの達成感が少ないのでないかと推察されます。今後の方策として、振返りの具体的な指標を示すことで、学習成果を実感し、「できた！」という自信につながるようにしていきたいです。また、授業中の発表にとどまらず、委員会やクラブ活動、たてわり活動、休み時間など学校生活全体の中で自分の思いや考えを発信していくことで、授業中にも自信をもって発言していけると考えます。引き続き、働きかけていきたい項目です。

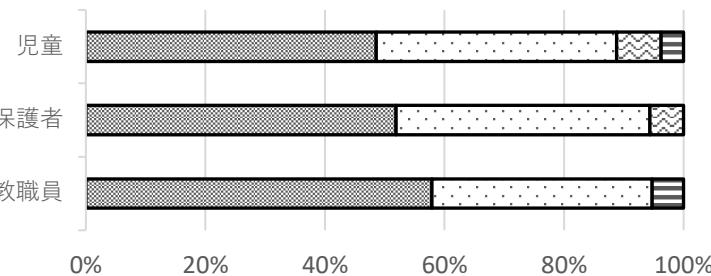
資料② 【豊かな心】～自分も友達も大切にできる子～

・全体グラフの比較

5 自分から進んであいさつをしている。



6 「九条弘道っこやくそく」を守っている。



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」・「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問		1・2年	3・4年	5・6年	保護者
5	自分から進んであいさつをしている。	96.2%	90.3%	72.0%	96.2%
6	「九条弘道っこやくそく」を守っている。	92.3%	90.3%	86.0%	94.3%

主な成果と課題

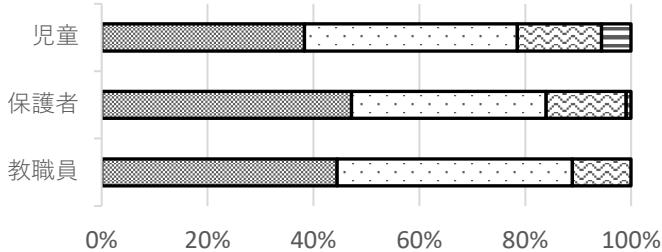
【豊かな心】～自分も友達も大切にできる子～

「豊かな心」の育成指標となるこの項目では、どちらも高い実現度になりました。挨拶については高学年で実現度が低くなっているのが気になります。登下校の様子や校内での様子を見ると、友だちや先生と気持ちのよい挨拶ができているようですが、「自分から進んで」というところができていないのかも知れません。自分たちが主になって全校児童に挨拶を呼びかける取組などを通して、「自分から進んで挨拶する」ことの気持ちよさや大切さを実感してほしいと思います。2学期以降に委員会などと連動した活動を計画し、「自分からあいさつ」できるよう目指していきたいと思います。また、学校から一歩外に出ると自分からあいさつできなくなる子どもたちもいるようですので、引き続き地域・家庭でも見守っていただけたら有難いです。

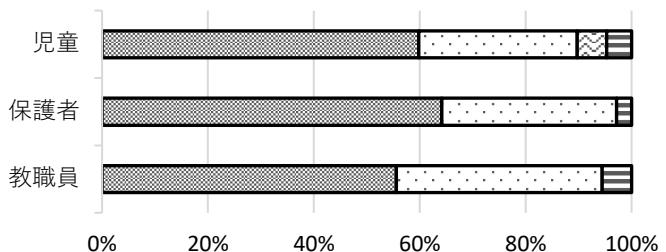
資料③【健やかな体】～健康でたくましい子～

・全体グラフの比較

7 早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気を付けた生活ができている。



8 安全に気を付けた行動ができる。



・学年別（低・中・高）の数値

（「出来ている」・「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問	1・2年	3・4年	5・6年	保護者	
				7	8
7 早寝・早起き・朝ごはんなど健康に気を付けた生活ができる。	96.2%	77.4%	70.0%	83.8%	
8 安全に気を付けて行動している。	96.2%	93.6%	84.0%	97.1%	

主な成果と課題

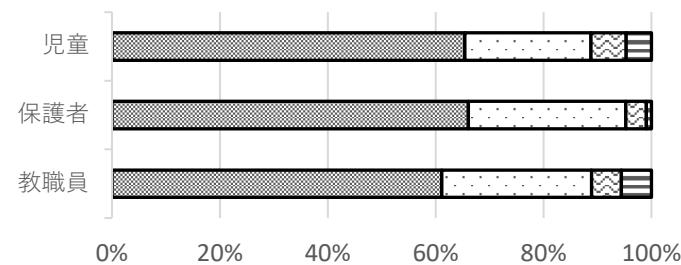
【豊かな心】～自分も友達も大切にできる子～

低・中学年は「早寝・早起き・朝ごはん」など、健康に気を付けた生活ができる児童の割合が多かったです。また、ほとんどの児童が安全に気を付けて行動しています。高学年になると、「早寝・早起き・朝ごはん」など規則的な生活に少し乱れが出てくるようです。アンケートの結果を見ると、保護者の方々の意識も高い項目ですので、引き続きお声かけや支援をお願いしたいと思います。学校では長期休み明けに「いきいき週間」の取組を行っており、規則正しい生活や自身の健康に関する振返りをしています。毎朝の保健に関する声かけ、身体計測時の保健指導等でも、子どもたちに基本的な生活習慣の大切さを伝えていきたいと思います。

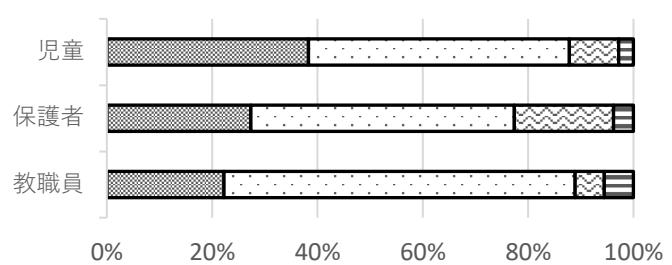
資料④【学校独自アンケート】

・全体グラフの比較

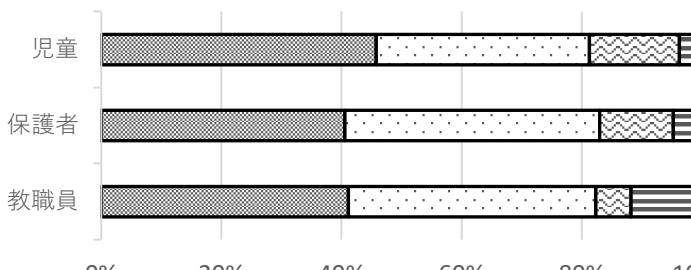
9 学校生活が楽しい。



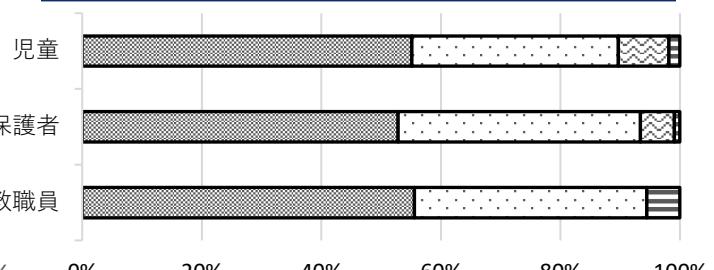
10 目標（めあて）に向かって粘り強く取り組んでいる。



11 クラスの人や他学年の人、学校などの役に立つ行動をしようとしている。



12 自分のしたことで、人に よろこんでもらったり「ありがとう」と 言ってもらったりしている。



・学年別（低・中・高）の数値（「出来ている」・「だいたい出来ている」を肯定的な意見として割合を出しています。）

質問	1・2年	3・4年	5・6年	保護者
9 学校が楽しい。	100%	83.6%	86.0%	95.2%
10 目標にむかってねばり強く取り組んでいる。	92.3%	93.5%	82.0%	77.1%
11 クラスの友だちや他の学年の役に立てるように行動している。	92.3%	87.1%	72.0%	82.9%
12 自分のしたことで、人に喜んでもらったり 「ありがとう」と言ってもらったりしている。	96.2%	90.3%	86.0%	93.4%

主な成果と課題

【学校独自アンケート】

「9. 学校が楽しい」と感じている子どもたちが多く嬉しく思います。特に低学年は学校生活を楽しく過ごしている様子です。しかし「あまり楽しくない」と感じている子どもが一定数いることにも着目して、どんな取組や活動でも一義的なものではなく、いろいろな子どもが活躍できる場となるよう気にしていきたいと思います。 「11. クラスの友だちや他の学年の役に立てるように行動している」「12. 自分のしたことで、人に喜んでもらったり『ありがとう』と言ってもらったりしている」の項目については、学年が上がるにつれて実現度が下がっていくことが気になります。思春期特有の心の揺れの中で、自己肯定感や自己有用感を持ちにくくなっていることが背景にあるのかもしれません。今後も肯定的な評価や教師からの声掛け、活躍の場を増やす、などの取組を続けていきたいと思います。1学期から活動している「たてわり活動」に加えて、クラブ活動・委員会活動、また運動会やわくわくふれあいアドベンチャーなどの取組を通して、今後実現度が上がってくることを期待しています。

○上記の指標、分析を学校運営協議会の理事会で報告し、ご意見をいただきました

- ・読書については図書館の蔵書や整備などにも深く関わっていると感じる。また、昔は調べものをするのに本は必要だったため今より身近にあったが、タブレットやスマホに置き換わっている部分もある。学習漫画や電子書籍などとも併せて「読書」の認識についても変わってきていると感じる。
- ・子どもたちは楽しく学校生活を送っているが、児童数の減少に伴い6年間同じクラスで過ごしている。たてわり活動を多く取り入れたり、外部講師を招いて授業をしたり、複数学年で授業に取り組むこともしていただいているが、ある程度決められた人間関係で6年間を過ごすことが子どもにとって良いことなのか考えていきたい。
- ・規則正しい生活を送りづらい一つの原因として、スマートフォンやタブレットの影響があるのではないだろうか。1学期には専門の外部講師による授業を行う学年もあったようだが、それをともに決まりを守りきらせるのが難しい。学校では、理解していても帰宅後はついスマートフォン等を触ってしまうのが今の子どもたち。スマートフォン等の長時間使用等については子どもの健康面・精神面を考えると心配なことが多い。学校でも引き続き指導していってもらいたいながら、家庭でもルール作りを大切にして欲しいと思う。